メディア報道は何を伝えるか？

外国人に対する態度に及ぼす影響の検討

○金田宗久・岡本真一郎

(愛知学院大学心身科学部)

キーワード：メディア報道，外国人に対する態度，紙筆版 IAT

What does the media coverage communicate? : Influence on an attitude towards foreigners

Munehisa KANEDA and Shinichiro OKAMOTO

(Faculty of Psychological and Physical Science, Aichi Gakuin University)

Key Words: media coverage, attitude towards foreigners, paper-format IAT

目 的

メディア報道による外国人イメージへの影響については、オリンピックやワールドカップなどの世界的なイベントをテーマに検討されてきた(上瀬・萩原, 2003; 村田, 2006; 2007)。これらのイベントにより外国人イメージは、好意的にも非好意的にも変容することが明らかになっている。このような研究は、多くの人の注目を集めるイベントの影響力を検討するという点で非常に有用であると考えられる。しかしながら、われわれのメディア報道への接触は、より日常的かつ身近な内容を多く含んでおり、それらの情報がどのように処理されているのかについても注意を向けるべきである。

メディア情報が受け手に及ぼす影響に関する認知的側面は、プライミングパラダイムを用いた研究によって検討されてきた(Ford, 1997)。本研究でも一種のプライミングパラダイムを用い、事前に与えられる国籍に関するカテゴリー情報を操作する。そして、日常的に繰り返されるメディア報道が外国人に対する態度にどのような影響を及ぼすか検討することを本研究の目的とする。外国人に対する態度の測定は、紙筆版 IAT (Lemm, Lane, Sattler, Khan, & Nosek, 2008, 小塩・西野・速水, 2009 など)を用いて潜在的態度を検討する。

方 法

実験参加者 日本人大学生 197 名 ($M = 20.22$ 歳, $SD = 1.44$)。授業時間の一部を利用し、一度に 60~80 名程度の集団で実施した。なお Lemm et al. (2008) を参考に紙筆版 IAT の本試行ブロックにおいて誤反応率が 20% 以上の者あるいは正反応度が 8 個以下の者を分析から除外した (分析対象者: 186 名)。

実験計画 国籍情報 4 水準 (日本・オーストラリア・ブラジル・国籍不特定) の実験参加者間 2 要因計画とした。

紙筆版 IAT 表紙を除き 8 ページから構成される紙筆版 IAT 用の冊子を作成した。1 ページ目には、IAT の課題説明が例とともに印刷されていた。2 ページ目以降に IAT の各ブロックがページ毎に用意された (全 7 ブロック)。第 1 ブロックは「日本人 - 外国人」、第 2 ブロックは「良い - 悪い」への分類課題であった。つづく第 3, 第 4 ブロックでは、第 1, 第 2 ブロックの概念を組み合わせた課題「日本人または良い - 外国人または悪い」の練習試行および本試行であった。第 5 ブロックは、第 1 ブロックのカテゴリー配置を左右逆転させた課題「外国人 - 日本人」を実施した。第 6 ブロックと第 7 ブロックは左右逆転させた概念と第 2 ブロックで用いた概念との組み合わせ課題「外国人または良い - 日本人または悪い」の練習試行および本試行を行なった。それぞれのページ中央に分類する刺激語を並べ、最上部に分類する概念名を左右に配置し、その下に回答用の括弧を並べた。各ページの刺激語数は 40 項目とし、ランダムに配置した。各ブロックの制限時間は 20 秒とした。組み合わせ課題の実施順序については、参加者間でカウンターバランスをとった。

手続き 「限定的な情報に基づいた印象形成に関する研究」と称して殺人事件に関する記事を 2 分間提示し、記事中の人物に関する評定を求めた。その後、紙筆版 IAT を実施した。

結 果

人物に対する印象評定 人物に対する「良い - 悪い (7 件法)」の評定について分散分析を行なった結果、国籍による差がみられた ($F(3, 182) = 2.80, p < .05$)。その後の検定の結果、ブラジル ($M = 6.09, SD = 1.02$) と国籍不特定 ($M = 5.48, SD = 1.41$)、日本 ($M = 6.09, SD = 1.10$) と国籍不特定の間に 10% 水準での差がみられた。

IAT 得点 紙筆版 IAT の結果の処理については Lemm et al. (2008) のアルゴリズム (Product: square root of difference) を用いて IAT 得点を算出した。この得点が高ければ高いほど、日本人より外国人に対して「悪い」と評価していること示す。IAT 得点について国籍情報 × IAT 実施順序 (第 4 ブロックが先・第 7 ブロックが先) の実験参加者間 2 要因分散分析を行なったが、IAT 実施順序による主効果および交互作用は認められなかったため (それぞれ、 $F(1, 178) = 1.35; .77, n.s.$)、国籍情報による 1 要因分散分析を行なった。その結果、条件間に 5% 水準で有意な差がみられた ($F(3, 182) = 2.87, p < .05$)。その後の検定の結果、日本国籍の場合よりも国籍情報が不特定の場合に IAT 得点が高かった (Figure 1)。

Figure 1 条件ごとの IAT 得点

考 察

個人に対する印象評定では、国籍不特定の条件よりも日本人やブラジル人に対してわずかに「悪い人物」という印象を抱いていた。不特定条件では「重要参考人」と表記していた点は留意すべきであるが、特定の国籍に対して悪い印象を抱いたという結果は、記事の内容に関連してイメージしやすい人物であることが印象形成の基準として利用されたかもしれない。一方、外国人に対する態度については、不特定条件で日本条件よりもネガティブな態度を示した。新聞記事の一つのストーリーとするならば、読み手によって行なわれた推論が外国人に対する態度に影響を及ぼした可能性が考えられる。